



## E コマンド

この章では、E で始まる Cisco NX-OS ユニキャスト ルーティング コマンドについて説明します。

### ebgp multihop

exterior Border Gateway Protocol (eBGP) の Time-To-Live (TTL; 存続可能時間) を eBGP マルチホップをサポートする値に設定するには、**ebgp multihop** コマンドを使用します。デフォルトの設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ebgp multihop ttl-value**

**no ebgp multihop ttl-value**

#### シンタックスの説明

<i>ttl-value</i>	eBGP マルチホップ用の TTL 値。範囲は 2 ~ 255 です。このコマンドの使用後は、BGP セッションを手動でリセットする必要があります。
------------------	--

#### デフォルト

なし

#### コマンド モード

BGP ネイバー コンフィギュレーション

#### サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

#### コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

#### 使用上のガイドライン

**ebgp multihop** コマンドは、eBGP TTL を eBGP マルチホップをサポートする値に設定するために使用します。ある eBGP ピアが別の eBGP ピアに直接接続されていない場合は、リモート eBGP ピアに到達するために複数のホップを必要とします。ネイバー セッションの eBGP TTL をこのようなマルチホップ セッションを可能にする値に設定できます。

このコマンドには、Enterprise Services ライセンスが必要です。

---

**例**

次に、eBGP マルチホップ値を設定する例を示します。

```
switch(config)# router bgp 1.1  
switch(config-router)# neighbor 192.0.2.1 remote-as 1.2  
switch(config-route-neighbor) ebgp multihop 2
```

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>feature bgp</b>	BGP 機能をイネーブルにします。

# eigrp graceful-restart

Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) のグレースフル リスタートをイネーブルにするには、**eigrp graceful-restart** コマンドを使用します。デフォルトの設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp graceful-restart**

**no eigrp graceful restart**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** イネーブル

**コマンド モード** アドレス ファミリ コンフィギュレーション  
ルータ コンフィギュレーション  
ルータ VRF コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが追加されました。
	4.0(3)	<b>graceful-restart</b> コマンドに置き換えられました。

**使用上のガイドライン** **eigrp graceful-restart** コマンドを使用し、EIGRP がプロセス再起動によりデータ フォワーディングパスに留まるようにします。このコマンドは **nsf** コマンドと同じです。  
このコマンドには、Enterprise Services ライセンスが必要です。

**例** 次の例では、グレースフル リスタートをイネーブルにする方法を示します。

```
switch(config)# router eigrp 1
switch(config-router)# eigrp graceful-restart
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>graceful-restart</b>	グレースフル リスタートをイネーブルにします。
	<b>timers nsf</b>	ノンストップ フォワーディングとグレースフル リスタートのタイマーを設定します。

# eigrp log-neighbor-changes

Enhanced IGRP (EIGRP) ネイバルータとの隣接関係での変更のロギングをイネーブルにするには、**eigrp log-neighbor-changes** コマンドを使用します。EIGRP ネイバルータとの隣接関係での変更のロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp log-neighbor-changes**

**no eigrp log-neighbor-changes**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト** 隣接関係の変更がロギングされます。

**コマンド モード** アドレス ファミリ コンフィギュレーション  
ルータ コンフィギュレーション  
ルータ VRF コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが追加されました。
	4.0(3)	<b>log-neighbor-changes</b> コマンドに置き換えられました。

**使用上のガイドライン** **eigrp log-neighbor-changes** コマンドを使用してネイバルータとの隣接関係の変更をロギングし、ルーティング システムの安定性をモニタし、問題を検出します。デフォルトでは、ロギングはイネーブルです。ネイバルータとの隣接関係での変更のロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

このコマンドには、Enterprise Services ライセンスが必要です。

**例** 次に、EIGRP プロセス 209 のネイバー変更のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp log-neighbor-changes
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>log-neighbor-changes</b>	EIGRP ネイバーの変更のロギングをイネーブルにします。
	<b>log-neighbor-warnings</b>	EIGRP ネイバーの警告のロギングをイネーブルにします。
	<b>log-adjacency-changes</b>	EIGRP 隣接状態変更のロギングをイネーブルにします。

# eigrp log-neighbor-warnings

Enhanced IGRP (EIGRP) ネイバーの警告メッセージのログをイネーブルにするには、**eigrp log-neighbor-warnings** コマンドを使用します。EIGRP ネイバーの警告メッセージのログをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp log-neighbor-warnings** [*seconds*]

**no eigrp log-neighbor-warnings**

## シンタックスの説明

*seconds* (任意) ネイバー警告メッセージの反復間隔。有効範囲は 1 ~ 65535 です。

## コマンドのデフォルト

ネイバー警告メッセージはログに記録されます。

## コマンド モード

アドレス ファミリ コンフィギュレーション  
ルータ コンフィギュレーション  
ルータ VRF コンフィギュレーション

## サポートされるユーザ ロール

ネットワーク 管理者  
VDC 管理者

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。
4.0(3)	<b>log-neighbor-warnings</b> コマンドに置き換えられました。

## 使用上のガイドライン

**eigrp log-neighbor-warnings** コマンドを使用してネイバーの警告メッセージをイネーブルにし、繰り返されるネイバー警告メッセージ間の間隔を設定します。

このコマンドには、Enterprise Services ライセンスが必要です。

## 例

次の例では、EIGRP プロセス 209 のネイバー警告メッセージがログに記録され、5 分 (300 秒) 間隔で警告メッセージが反復されます。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp log-neighbor-warnings 30
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>log-neighbor-changes</b>	EIGRP ネイバーの変更のログをイネーブルにします。
<b>log-neighbor-warnings</b>	EIGRP ネイバーの警告のログをイネーブルにします。
<b>log-adjacency-changes</b>	EIGRP 隣接状態変更のログをイネーブルにします。

# eigrp router-id

Enhanced IGRP (EIGRP) がネイバーと通信する際に使用するルータ ID を設定するには、**eigrp router-id** コマンドを使用します。設定されたルータ ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp router-id ip-address**

**no eigrp router-id ip-address**

## シンタックスの説明

<i>ip-address</i>	ルータ ID (ドット付き 10 進表記)
-------------------	-----------------------

## コマンドのデフォルト

EIGRP は、EIGRP プロセスが開始されたときにルータ ID として使用する IP アドレスを自動的に選択します。最も高いローカル IP アドレスが選択され、ループバック インターフェイスが優先されます。EIGRP プロセスが **no router eigrp** コマンドによって削除されないかぎり、またはルータ ID が **eigrp router-id** コマンドによって手動で設定された場合、ルータ ID は変更されません。

## コマンド モード

アドレス ファミリ コンフィギュレーション  
ルータ コンフィギュレーション  
ルータ VRF コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。
4.0(3)	<b>router-id</b> コマンドに置き換えられました。

## 使用上のガイドライン

**eigrp router-id** コマンドを使用し、EIGRP にルータ ID を手動で設定します。ルータ ID は、外部ルートの発信元ルータを識別するために使用されます。外部ルートがローカル ルータ ID によって受信された場合、そのルートは破棄されます。ルータ ID は、2 つの例外を除く任意の IP アドレスによって設定できます。0.0.0.0 と 255,255,255,255 は有効な値ではなく、入力できません。各ルータに一意の値を設定する必要があります。

このコマンドには、Enterprise Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、固定されたルータ ID として 172.16.1.3 を設定する例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 209
switch(config-router)# eigrp router-id 172.16.1.3
```

# eigrp stub

ルータを Enhanced IGRP (EIGRP) を使用するスタブとして設定するには、**eigrp stub** コマンドを使用します。EIGRP スタブ ルーティングをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

**eigrp stub [direct | leak-map *map-name* | receive-only | redistributed]**

**no eigrp stub [direct | leak-map *map-name* | receive-only | redistributed]**

## シンタックスの説明

<b>direct</b>	(任意) 直接接続されたルータをアドバタイズします。
<b>leak-map <i>map-name</i></b>	(任意) リーク マップに基づいて、ダイナミック プレフィクスを許可します。
<b>receive-only</b>	(任意) ルータを受信専用ネイバーとして設定します。
<b>redistributed</b>	(任意) 他のプロトコルと Autonomous System (AS; 自律システム) から再配布されたルータをアドバタイズします。

## コマンドのデフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

アドレス ファミリ コンフィギュレーション  
ルータ コンフィギュレーション  
ルータ VRF コンフィギュレーション

## サポートされるユーザ ロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。
4.0(3)	<b>stub</b> コマンドに置き換えられました。

## 使用上のガイドライン

**eigrp stub** コマンドは、すべての IP トラフィックを配信ルータに転送するスタブとしてルータを設定するために使用します。

**direct** キーワードを指定すると、EIGRP スタブ ルーティングは接続されたルータをアドバタイズできます。このオプションは、デフォルトではイネーブルです。

**receive-only** キーワードは、ルータが EIGRP AS 内の他のルータとルータを共有しないように制限します。**receive-only** キーワードは、あらゆるルータタイプを送信しないようにするため、他のオプションを指定できません。

**redistributed** キーワードを指定すると EIGRP スタブ ルーティング機能は他のルーティング プロトコルと AS を送信できます。このオプションを設定しないと、EIGRP は再配布されたルータをアドバタイズしません。

これらの 4 つのキーワード (**direct**、**leak-map**、**receive-only**、**redistributed**) のいずれかを **eigrp stub** コマンドと同時に使用すると、特定のキーワードによって指定されたルータタイプのみがアドバタイズされます。

このコマンドには、Enterprise Services ライセンスが必要です。

#### 使用上のガイドライン

次に、ルータを受信専用ネイバーとして設定する例を示します。

```
switch(config)# router eigrp 1  
switch(config-router)# eigrp stub receive-only
```